

2022年度（令和4年度）学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番22	福山市立誠之中学校
最終更新日		2023年（令和5年）2月1日

Ⅰ 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体性			
			知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生
・コロナ禍の中で各学校とも様々な工夫をして教育を進めている。 ・自己肯定感や自己効力感を伸ばしてほしい。 ・IT化が進んでいくので、トラブル対策も含めて、子どもの主体的な学びが進むよう取り組んでほしい。	・地域から学び、理解し、つながろうとしている子どもが増えている。 ・相手意識を持った行動が不十分。 ・目的を明確に持ち主体的に学ぶまでには至っていない。 ・長欠児童生徒の割合が高い。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒			
			研究主題：自ら考え学ぶ教育活動の創造 校区共通のSDGs：11 住み続けられるまちづくり			

Ⅲ 自校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体性				
地域や保護者から信頼され、校区内の小学校から多くの児童が夢や希望を持ちながら入学したいと（学びたい）と思える中学校の創造			知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生	
学校教育目標		めざす子ども像	1年	自ら課題を見つけ、解決に向けて情報を収集し、これまで学習したことを使って、自分の考えを説明することができる。			
自ら学び、自ら考え、たくましく生き抜く生徒の育成			2年	課題解決に必要な情報を選択・分析して解決方法を見出し、仲間と共に解決に向けて取り組むことができる。			
			3年	課題を分析した結果とこれまで学習した内容を基に、他者と協力して解決方法を見出し、解決することができる。			
現 状		研究	教科等	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保体、技家、英語、総合的な学習の時間			
＜児童生徒＞ ・決まりを守り、落ち着いた学校生活を送っている。 ・自分の思いを強く持ち表現でき始めたが、将来を見据えて現在何をすべきかという見通しを立てることは不十分である。 ・総欠席数は減少傾向にあるが、長期欠席生徒が減少しない。 ＜授業＞ ・落ち着いた雰囲気の中で、知識・技能の習得に向けた取組はできている。 ・学ぶ楽しさ（自分に見える世界の広がり）の実感が不十分なため、主体的な学びにつながっていない。 ・授業で学んだことが、日常の中で行動化できていない。			主題・内容等	主題：自ら課題を見つけ主体的にその解決に向けて取り組む授業づくり 内容：教科および総合的な学習の時間の「課題発見・解決学習」の単元計画を含む学びづくり案の開発			
		めざす授業の姿	・学習と社会や自然などを関連付け、 <u>必然性のある課題設定</u> をした授業 ・互いの考えを交流する中で、 <u>多様な価値観を認め合い、自分の考えを深める授業</u> ・「教える」ことと「学ぶ」こと、「指示する」ことと「自分で決める」こと等 <u>バランスを考えた授業</u>				

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力 ⁷ 達 ⁷ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 ⁷ 達 ⁷ 評価	達成 評価	総合 評価
2	学習や体力作りに意欲的に 取り組む生徒 の育成	★	継 続	「子ども主体の 学び」を中心に据 えた授業の全教室 展開 【知】 【思・判】 【表】 【主】	・授業者全員が年 間2回以上の授 業公開を実施 する。	・生徒アンケート 「自ら進んで勉 強」80%以上 ・新体力テストで 男女各学年県 平均4項目以 上	・1学期末の生徒ア ンケートで肯定的 回答は61.3% ・新体力テストの結 果において、2学年 では県平均を上回 る数値を示したの が、男子4項目、 女子5項目であ った。	3	3	・学習ソフトの活 用や定期試験に向 けての単元テスト を活用し、学習サ イクルと、家庭学 習の定着をはか る。 ・2学期末の生徒ア ンケートで肯定的 回答は63.0% ・年間2回以上の授 業公開と校内研修 (5教科プロジェ クト)を実施し、 全教員で授業改善 をはかった。 ・新体力テストの結 果において県平均 を上回る項目が男 女ともに4項目 以上みられた。	3	3	3	・調査問題や入学 試験を活用した分 析をする。 ・学習サイクルと 家庭学習の定着の ために、小テスト や課題の出し方 について研修して いく。 ・全学年、発達段 階に応じた補強運 動を継続的に取り 入れていき、学校 全体の体力向上 に努める。
2	すべての生 徒が元気で 登校する学 校づくり	★	継 続	多様な学びと居 心地のいい居場 所の充実 【自・共】	・個々の実態に応 じた学習場所を 設置する。 ・長期欠席傾向の 生徒全員をステ ップルームにつ なげる。	・長期欠席生徒数 の前年度(56人) 比5割減	・9月末までで長期 欠席生徒数44人 ・SRや学習室を運 営しているが、長 欠生徒を積極的 につなげることが できていない。 ・SC、SSWと細か な連携ができて いる。	2	2	・居心地のよい学 級づくりのためグ ループエンカウン ターなどを取り入 れ、生徒間のつな がりを強化してい く。 ・1月末までで長期 欠席生徒数64人 ・全校共通のテー マでのクラスで の話し合い活動 を取り入れた。 ・SRや学習室を運 営し、個々の実 態に応じた学習 場所を提供する ことができた が、長期欠席傾 向の生徒全員 を繋げることが できなかった。	2	2	2	・クラスアンケート やQ/Uアンケート を活用した分析 を行い、クラス 経営など居場所 づくりに活かす。 ・長期欠席傾向 の生徒を積極 的にSRや学 習室につなげる。
			継 続	生徒の自己効 力感の高揚 【自・共】	・校内、地域のボ ランティア活動 を定期的に実 施する。	・校内、校外のボ ランティア活動 への参加生徒 90%以上	・1学期末のアン ケートで参加生 徒28.9% ・9月末までに校 内ボランティア を1回しか設定 できていない。	2	2	・学期に1回以上 校内ボランティア を設定する。 ・地域ボランティア 参加への積極 的な声かけを行 う。 ・2学期末のアン ケートで参加生 徒33% ・校内ボランティア を学期に1回設 定したが、参加 率が少なかった。	2	2	2	・学期に1回以上 校内ボランティア を設定する。 ・地域ボランティア 参加への積極 的な声かけを行 う。
4	地域から信 頼される学 校		継 続	地域・保護者への 情報発信による 学校教育活動の 認知 【自・共】	・各種通信の発行 やHPの更新を定 期的に行い、必 要に応じてメル ール配信を行 う。	・保護者アンケー ト「学校からの 情報が伝わり様 子がわかる」 85%以上	・1学期末の保護 者アンケートで 肯定的回答は77. 4%	3	3	HPを新しくし、保 護者にも教職員 にも使いやすい ものになるよう にする。 ・2学期末の保護 者アンケートで 肯定的回答は82. 6%	3	3	3	HPを新しくし、 HP担当を各学 年1人以上配置 する。

3	教職員が元気で、生徒に向き合える学校づくり		新規	全教職員が健康を維持して持続可能な勤務リズムの確立	・時間外在校等時間が月45時間以上の教職員と翌月第1週目に面談する。	・時間外在校等時間が年360時間以上の教職員0（急な生徒指導を除く）	・9月末では270時間を越える教職員が7名、そのうち1名が360時間超	3	3	会議の持ち方や仕事分担等を見直すなどして、学年や分掌ごとの組織でも時間を意識する。	・1月末で、360時間以上の教職員20名	2	2	2	・一人一人がやるべきことを確実にやる。 ・分掌や学年の仕事分担を見直す。
		★	継続	授業づくりのための時間の確保	・5時間授業の日かつ部活動休養日を原則毎週確保する。	・福山100NEN教育アンケート「授業づくりにあてる時間が確保できている」80%以上	・夏休みに行われたアンケートで肯定的回答は50.0%（市平均69.7%）	3	3	時間がとれない原因・理由であがった「生徒指導」や「保護者対応」について、日頃の連携を大切にすることを改めて確認し、実行する。	・毎週2日程度5時間授業の日を設定したり、時間割を工夫し、授業時間内に会議ができるようにした。	3	3	3	・日頃から個々の生徒への対応を意識させる。 ・先の見通しが持ちやすい体制づくりをする。

※自己効力感：自分がある状況において結果を出すために適切な行動を選択し、かつ遂行するための能力を自分が持っているかどうか認知するための言葉のこと。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。